

小児用肺炎球菌予防接種について

小児用肺炎球菌ワクチンの接種を実施するにあたって、接種を受けるお子さんの健康状態をよく把握する必要があります。この説明文書をお読みになり、「小児用肺炎球菌ワクチン予防接種予診票」にご記入の上、医師の診察を受けてください。

●このワクチンの効果と副反応

小児用肺炎球菌ワクチンは、生後2ヶ月齢以上5歳未満のお子さんに接種することができるワクチンです。このワクチンの接種によって、肺炎球菌による重い感染症(細菌性髄膜炎、菌血症など)を予防することが期待されます。

小児用肺炎球菌ワクチンの国内臨床試験でみられた副反応は、注射部位の症状(赤み、硬結、腫れ、痛みなど)、発熱(37.5℃以上)などです。ただし、非常にまれですが、海外で次のような副反応が報告されています。(1)ショック、アナフィラキシー様反応^{※1}、(2)けいれん。このような症状が認められたり、疑われた場合は、すぐに医師に申し出てください。

●接種スケジュール

標準の接種スケジュールは、初回免疫として2ヶ月齢以上7ヶ月齢未満で接種を開始して、標準的には生後12月までに27日以上の間隔をおいて3回接種し、生後12月から生後15月を標準的な接種期間として、初回接種終了後60日以上の間隔をおいた後であって、生後12月までの日以降において1回接種し、計4回接種します。ただし、初回2回目及び3回目の接種は生後24月に至るまでに行うこととし、それを超えた場合は行わないこととします(追加接種は実施可能)。また初回2回目の接種が生後12月を超えた場合、初回3回目の接種は行わないこととします(追加接種は実施可能)。

この期間の接種を逃した場合は、月齢に応じてそれぞれ以下の通りに接種します。7ヶ月齢以上12ヶ月齢未満で接種開始の場合は、初回免疫を標準的には生後13月までに27日以上の間隔をおいて2回、初回接種終了後60日以上の間隔をおいた後であって、生後12月に至った日以降において追加免疫を1回の計3回接種します。ただし、初回2回目の接種は生後24月に至るまでに行うこととし、それを超えた場合は行わないこととします(追加接種は実施可能)。12ヶ月齢以上24ヶ月齢未満の場合は60日間以上の間隔で計2回、24ヶ月齢以上の場合は1回接種します。

●予防接種を受けることができない方

- ① 明らかに発熱をしている方(通常37.5℃を超える場合)
- ② 重い急性疾患にかかっている方
- ③ このワクチンの成分またはジフテリアトキソイドによってアナフィラキシー^{※1}をおこしたことがある方
- ④ その他、かかりつけの医師に予防接種をうけないほうがよいといわれた方

(裏面へつづく)

^{※1} 通常接種後30分以内に出現する呼吸困難や全身性のじんましんなどを伴う重いアレルギー反応のこと

●予納接種を受けるに際し、医師とよく相談しなければならない方

- ① 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害などの基礎疾患のある方
- ② 過去に予防接種で接種後 2 日以内に発熱、全身性発しんなどのアレルギーを疑う症状のみられた方
- ③ 過去にけいれん(ひきつけ)をおこしたことがある方
- ④ 過去に免疫状態の異常を指摘されたことがある方もしくは近親者に先天性免疫不全症の者がいる方
- ⑤ このワクチンの成分またはジフテリアトキソイドに対してアレルギーをおこすおそれがある方

●ワクチン接種後の注意

- ① 接種後 30 分間は、ショックやアナフィラキシーがおこることがありますので、医師とすぐ連絡がとれるようにしておきましょう。
- ② 接種後に高熱やけいれんなどの異常が出現した場合は、速やかに医師の診察を受けてください。
- ③ 接種後 1 週間は体調に注意しましょう。また、接種後、腫れが目立つときや機嫌が悪くなったときなどは医師にご相談ください。
- ④ このワクチンの接種後、違う種類のワクチンを接種する場合は、1 週間以上の間隔をあける必要があります。ただし、このワクチンは他のワクチンとの同時接種が可能ですので、同時接種を希望する場合には、医師にご相談ください。
- ⑤ 接種部位は清潔に保ちましょう。入浴は問題ありませんが、接種部位をこするのはやめましょう。
- ⑥ 接種当日は激しい運動はさけてください。その他はいつも通りの生活で結構です。